

国際関係論	1～4年・前期	2単位	教授 世喜 利彦
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31120051

1. 授業のねらい・概要

看護学部生として国際交流を学ぶために、諸外国の医療・看護等の状況について、講義およびグループ学習（グループで海外の国について、地理、経済、言語、文化、生活習慣、医療・看護等について、調査、発表し共有化する。）を通して理解し、日本と比較検討する。また、昨年同様 2021 年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、海外研修は中止と決定した。講義については、2019 年度までに実施した海外看護研修先での講義や施設見学、医療・看護に携わる人々、地域や施設で生活する人々との交流画像、記録を活用し、海外と日本の相互理解を深める機会とする。

2. 学修の到達目標

1. 諸外国の文化、宗教、生活習慣、貧困と開発、健康問題、医療・看護等を理解する。
2. グループ調査・検討により諸外国の医療および看護、福祉施設等の現状を理解する。
3. 2019 年度までに実施した海外研修の交流画像、記録を通して、日本の医療・看護等の現状を考える。

3. 授業の進め方

学習内容としては、インターネット情報や文献等による諸外国の医療・看護の状況について学習し、グループごとに、調査項目を分担し、具体的に調査・検討し、各グループから発表を行い履修者全員で共有化する。

4. 授業計画（演習）

1. これまでの海外看護研修について	9. コミュニケーション（日常英会話、マナー等）
2. 先進国、開発途上国と国際看護	10. コミュニケーション（国際親善等）
3. 世界の健康問題（人口、経済・保健指標）	11. グループワーク（グループ分け、調査テーマ）
4. 世界の貧困と開発、プライマリ・ヘルスケア	12. グループワーク（諸外国と日本の比較 I）
5. 在留外国人の動向・社会背景と健康問題	13. グループワーク（諸外国と日本の比較 II）
6. 在留外国人の異文化背景を理解する基本的概念	14. グループワーク発表（I）
7. 国際機関、政府開発援助（ODA）、非政府組織（NGO）	15. グループワーク発表（II）
8. 開発途上の保健・医療システム	

5. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況とグループワーク発表（積極性、発言等）30%、課題レポート70%を総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

教科書：柳沢 理子（2019）：国際看護学（看護の統合と実践、開発途上国への看護実践を踏まえて）[第 1 版]、ピラールプレス。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

グループワークについては、授業時間以外に調査することがあり、グループメンバー同士で役割分担を話し合ってから実施する。また、復習（1 時間以上）は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

不明な点、理解できない点があれば、遠慮しないで質問すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

グループワーク（グループで海外の国について、地理、経済、言語、文化、生活習慣、医療・看護等について、調査、発表し共有化する。）を通して理解し、日本と比較検討をし、各グループから発表し、全員で共有化する。課題のレポートを提出する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目であり修得できない場合には直接、進級不可にはならないが、必修単位と選択単位を合計して卒業要件単位数を満たさなければならない。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

該当する。本授業は、以下の実務経験を生かして実施される。研究機関における研究員としての勤務経験を活かして、講義・演習を行う。